

標 題： Components of Olive Oil and Chemoprevention of Colorectal Cancer  
オリーブ油の成分と結直腸癌の化学予防

---

著 者： Y. Z.H-Y. Hashim , I. R. Rowland, et al. (北アイルランド ウルスター大学)

---

掲 載 誌： Nutr. Reviews 63 (11): 374–386 (2005)

---

要 旨： オリーブ油は、1 価不飽和遊離脂肪酸(オレイン酸)、炭化水素のスクワレン、トコフェロール、香気化合物、およびフェノール化合物など広範囲な物質を含有する。

オリーブ油の高い摂取は伝統的な地中海食事の証明と考えられ、それは結直腸癌などの癌の低い発症率と有病率と関連する。

オリーブ油の抗癌作用は高い値の 1 価不飽和脂肪酸、スクワレン、トコフェロールおよび、フェノール化合物が原因と考えられてきた。

それにもかかわらず、発癌におけるオリーブ油フェノール化合物の役割を研究することの関心が増えている。

この総説の目的は、特にオリーブ油フェノール化合物の抗酸化性および高癌作用に関する疫学、in vitro、細胞および動物の研究を要約して、オリーブ油のフェノール化合物と結直腸癌との間の関連の概説を提出することである。

キーワード： オリーブ油フェノール化合物、結直腸癌、抗酸化物、抗 癌

---